

「教師の仕事と4月までの課題」

今までの講義やスタージュ、教育実習や採用試験を通してたくさん学んできたことを生かしながら、より実践的な内容を学ぶことができた。「学校における一年間」「困っている子への支援」「危機管理について」など、テーマごとに実際に豊富な経験をされている講師の方からお話を聞いたり、課題について協議して考えを深めたりという経験ができた。特に、教育実習だけでは分からなかった学級通信などの文章や保護者対応、教育相談や人間関係づくりなど、「教師の仕事」について知るとともに、授業以外の仕事もたくさんあるのが大変なことが多いと感じた。特に重要だと感じたことは、人間関係づくりである。「困っている子への支援」や「いじめ、不登校への対応」でも子どもと教師との関係、教師同士関係づくりをしっかりとすることで子ども理解をし、教師同士で情報を共有し、1人で抱え込まないことが重要であると感じた。人間関係づくりを考えたとき、日常的に話をする機会をもち、かかわろうとする姿勢が必要だと分かった。座席表に書き込みをしたり、1日1回話をするようにしたりといった積み重ねが、教師の仕事には大切であると考えている。

そして、15回の講義を通して感じた4月までの課題を3点挙げたい。まず1点目は、教師自身も魅力的な人間になることである。子どもは教師を本当によく見ている。自分を客観的に知るとともに、色々な考えにふれながら自分らしさを見つけていきたい。次に2点目は、相手に伝える力をつけることである。短く、伝わりやすい話し方をするだけでなく、「気づいてほしいこと」を直接言葉にせずには伝えられるようになりたい。そして3点目は、公開研究授業など、実際の授業の様子や学校の様子を見て学んでいくことである。今まで公開研究授業を見た機会は、大学の講義内で設定されているものが多く、自ら動くという姿勢が足りていなかった。そこで、実際の授業の様子を見られる機会を見つけ、積極的に参加していきたい。また、現在参加しているボランティア活動や、参与観察させてもらっている学校でも積極的にかかわっていきたい。

最後に、今回の教職実践演習を通して、同じく教師として頑張っていこうとしている仲間との協議やロールプレイを通して、たくさんの考え方にふれながら自分の考えを深めることができただけでなく、より教師として頑張っていきたいという意欲を高める機会になった。教師の仕事は大変であると思うが、今回学んだことを生かしながら、毎日学ぶ姿勢を忘れずに仕事に取り組んでいきたい。